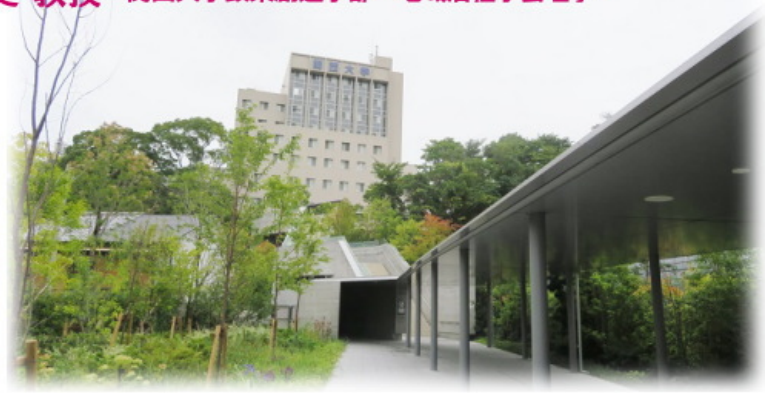
平成29年度　第1回大学提携授業「関西大学」

2017.09.06　関西大学 千里山キャンパス ソシオＡＶ大ホール

講義テーマ　**「大阪の酒:いまむかし」**　日本酒で地域活性化

講師　**橋本 行史 教授**　関西大学政策創造学部　地域活性学会理事

学内通路わきの桔梗とマトリカリア



提携授業が関西大学で初めてであり、また、夏休み明け最初の出会いということもあってのことか、会場前には早くから受講生の談笑する姿が多数見受けられました。

今回は自治体政策・地域活性化研究ご専門の橋本行史先生より、酒米と日本酒業界研究もからめて「大阪の酒：いまむかし」と題してお話いただきました。

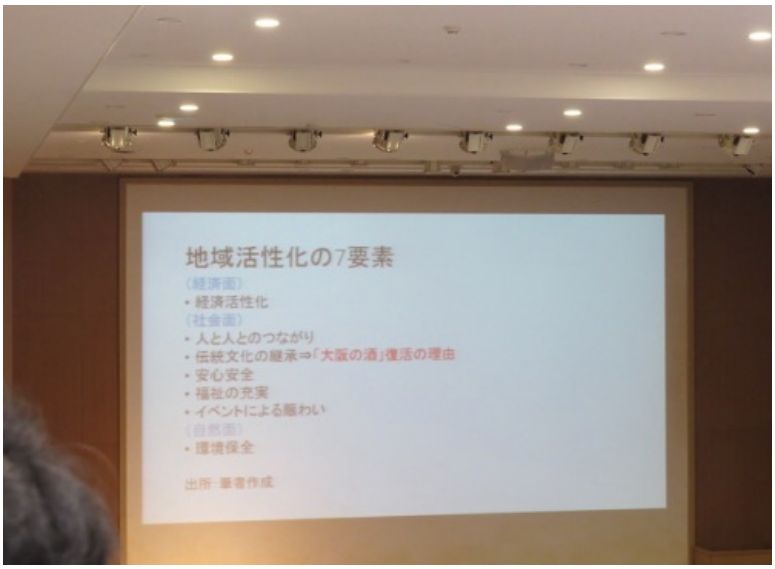
かって日本一だった大坂の酒造りの歴史から、現在では府下周辺部には酒造会社が残るものの、市内はひとつもない状況である。

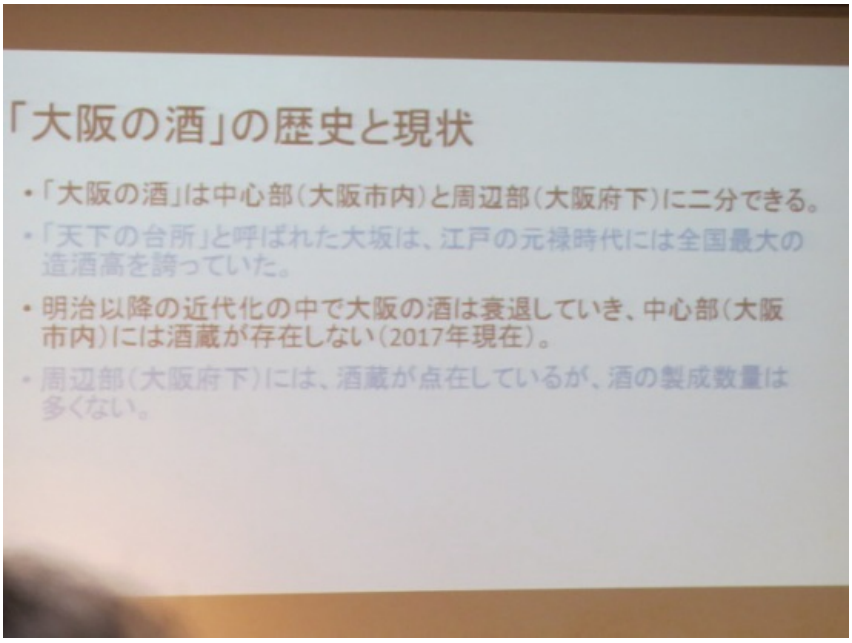
日本酒の需要が減退したことから、急激な酒造り回復は望めないが新たな市場開発や輸出なども進んでおり、地方創生の一策として、堺市や徳島県上勝町の酒造復活事例を紹介される。

講義終了後、受講生は仲間と学内施設の見学や学食などで、久々の学生気分を味わわれた方も多かったとのことでした。

橋本行史 先生ご紹介

大阪の酒:いまむかし
日本酒で地域活性化
一目指せ！「大阪の酒」の復活一
地域活性学会理事
関西大学政策創造学部教授
橋本 行史
(hasimotk@kansai-u.ac.jp)


地域活性化の7要素
（経済面）
・経済活性化
（社会面）
・人と人とのつながり
・伝統文化の継承⇒「大阪の酒」復活の理由
・安心安全
・福祉の充実
・イベントによる賑わい
（自然面）
・環境保全
出所：筆者作成


「大阪の酒」の歴史と現状
・「大阪の酒」は中心部（大阪市内）と周辺部（大阪府下）に二分できる。
・「天下の台所」と呼ばれた大坂は、江戸の元禄時代には全国最大の造酒高を誇っていた。
・明治以降の近代化の中で大阪の酒は衰退していき、中心部（大阪市内）には酒蔵が存在しない（2017年現在）。
・周辺部（大阪府下）には、酒蔵が点在しているが、酒の製成数量は多くない。

成功事例の分析

銘柄「千利休」
http://sennorikyu-nihonshu.jp/

復活の立役者

猪谷理事長よりお礼のあいさつ

大きな拍手でお礼

講義が終わって

Top Page